

平成25年鉄鋼流通団体合同賀詞交歓会を開催

—総勢690名が参集—

平成25年の鉄鋼流通団体合同賀詞交歓会は、1月15日(火)午後5時より、ロイヤルパークホテル3階のロイヤルホールにおいて開催された。



定刻20分前に会場入り口に関係団体役員6名(当工業組合は高木理事長と酒匂東京支部長)が居並び、立礼を交わしながら入場が始まった。

出席者は、来賓として、経済産業省製造産業局鉄鋼課・山下隆一課長、石神邦子課長補佐、鉄鋼業界からは鉄鋼産業懇談会・樋口眞哉会長(新日鐵住金・代表取締役副社長)、同懇談会厚板部会・久保亮二部会長(JFEスチール・常務執行役員)をはじめ多数ご出席いただき、またメーカー、商社、機械メーカー、ユーザー団体、報道関係者のほか、全国

各地の会員・組合員など、総勢約690名が参集した。



定刻には主催6団体の代表が登場し、主催者を代表して全国コイルセンター工業組合の鈴木貴士理事長より開会挨拶が行われた。

次に、経済産業省の山下隆一鉄鋼課長より祝辞が述べられ、引き続き樋口眞哉・鉄鋼産業懇談会会長のご発声で乾杯が行われ、和やかな懇談に移った。

午後6時10分に至り、関東コイルセンター工業会・西山寛会長による中締め（三本締め）で散会となった。

1. 全国コイルセンター工業組合 鈴木理事長の挨拶

昨年末の政権交代以降、ムードが一変した。長年、新年のあいさつで厳しい年だといわれてきたが、今年が良い年になるだろうと期待も膨らむ。平成元年に出版された『脱皮できない蛇は死ぬ』（堀紘一著）という本を先日読み返したところ、企業経営については良い物を安くという日本の成功パターンは成立しなくなるので、クリエイティブ・カンパニーをめざさないといけないと書かれていた。この20年間日本は脱皮できなかったのではないと思う。我々鉄鋼流通業は、新政権の経済対策に期待しつつ、例年に比べて景気も上向くだろうから、その追い風にしっかりと乗りながら、強靱な企業・業界を目指して、自ら脱皮していかなければならない。

2. 経済産業省鉄鋼課 山下課長の来賓祝辞

本日、補正予算案として緊急経済対策が閣議決定された。復興・防災、成長による富の創出、暮らしの安心・地域経済の活性化の3つの柱で構成されている。復興・防災では、鉄鋼業界と一緒に、質の高い鋼材を供給していただきたい。また、これまで産業界からいただいたご意見をつなぐことができなかったが、これからは産業界の意見を聞き、それをベースに政策を作っていく。皆さんの情報や知恵をいただき、一緒になって日本経済再生のために働きたい。



3. 鉄鋼産業懇談会 樋口会長のご祝辞

為替、株価、政策面で追い風が吹いている。ただ、こうした恵まれた環境を活かすには業界自身の努力も必要だ。そのためには、内需で6千万トンという水準に合ったスリムで筋肉質の構造にすること、アジアに進出している顧客の需要をきちんと捕捉すること、さらに鉄鋼流通・加工業が培ってきた品質やデリバリーに磨きをかけ、顧客にとっての価値を創造していくこと。この3つをきちんと実行すれば、足元の追い風を十分に受けて、立派な業績を挙げ、来年はもっと明るい顔で新年を迎えられる。



以上